

THIS IS THE HOUSE PLAN WHAT WE CHALLENGE TO GRAVITY IN THE WORLD

■設計:家宇建築設計事務所+ 梁 臆

■ 概要

- 一敷地位置: 済州特別自治道 済州市 吾羅3洞 2296
- 一地域地区: 自然緑地地域、自然集落地区
- 一用途: 一戸建て住宅
- 一敷地面積: 402.00 m²、一建築面積: 158.96 m²
- 一建蔽率: 39.54%、一容積率: 71.24%
- 一構造: 鉄筋コンクリート構造、一外部仕上げ材: 済州産の板石、木材など

■作品概要

1.計画の意図

この住宅は、済州の漢羅山と海がお互いに見合う地域の吾羅洞の緩やかな丘の条件に合わせたものである。およそ 130 坪規模の敷地に傾斜面の条件を利用して地下は駐車場に、1 階と2階を居住空間として計画した。寝室と居間は玄関を通じて分けられ、南北に開かれる自然景観を様々な形で眺めることができるように計画された。

この住宅の外部空間は、内部と外部を視覚的に結ぶ重要な空間的要素、例えば 1 階の居間は カーテンワルーを通じて 北側の景観が流れ込まれマダン（結婚やお葬式、農産物の乾燥など多目的に使われる小さい空間を意味する）も視覚的連続性を持つ。一方後ろの庭園は進入の際に多少狭く感じられる玄関空間により視覚的豊かさを与える。

外部の材料は、済州産の板石が持つ二つの材質感を組み合わせて、石の独特の重さの感じが感じられないように浮かべる方法(Floting method)を試みた。済州産の石は雨が降ると石の色が変わる独特な性質を持っている。このような手法を通じて、時間の変化あるいは天気によって変わるトータルな家のイメージをランドスケープに入れ替えるようとした意図であると言える。

2.計画の方法

2-1. ZERO GRAVITY

－敷地を現象学的方法を通じて実存的主体に認識するのは、関係(Relationship)としての建築を理解することである。近代とは違って、現在社会は各々の要素らの均衡状態を維持するため、新しい要素(意図されないイベント)を作り出したり、その関係がさらに複雑(Complex)になる。このことは、近代で論議された重力の持つ物理的性質を解体して、現代的観点から解析してみようとの意図のためである。済州産の板石を敷地の上に浮かべたの(Floating)は建築を世界一内一存在という思考を通じて現そうとした。

2-2. GENIUS LOCI

－敷地を縦と横の空間割りに分けて分析した。第一に、敷地の外的要素を分析するため、敷地と道路、隣接地との地形(Topography)と漢羅山から海へ展開される敷地での眺望(Vista)、方向による配置を考慮する。第二に、道路から内部を空間割りに分けて居住のプログラムを公的空間(居間と家族室)、私的空間(寝室)に分けて配置する(Program in Blocks)。これを 3D プログラムを使ってさらに具体化する。